

平成24年度
HIGO プログラム選抜試験問題

2012

HIGO program selective examination for Kumamoto University

小論文

試験時間 1時間30分

(12:30~14:00)

Short Article

Duration of examination 90 min

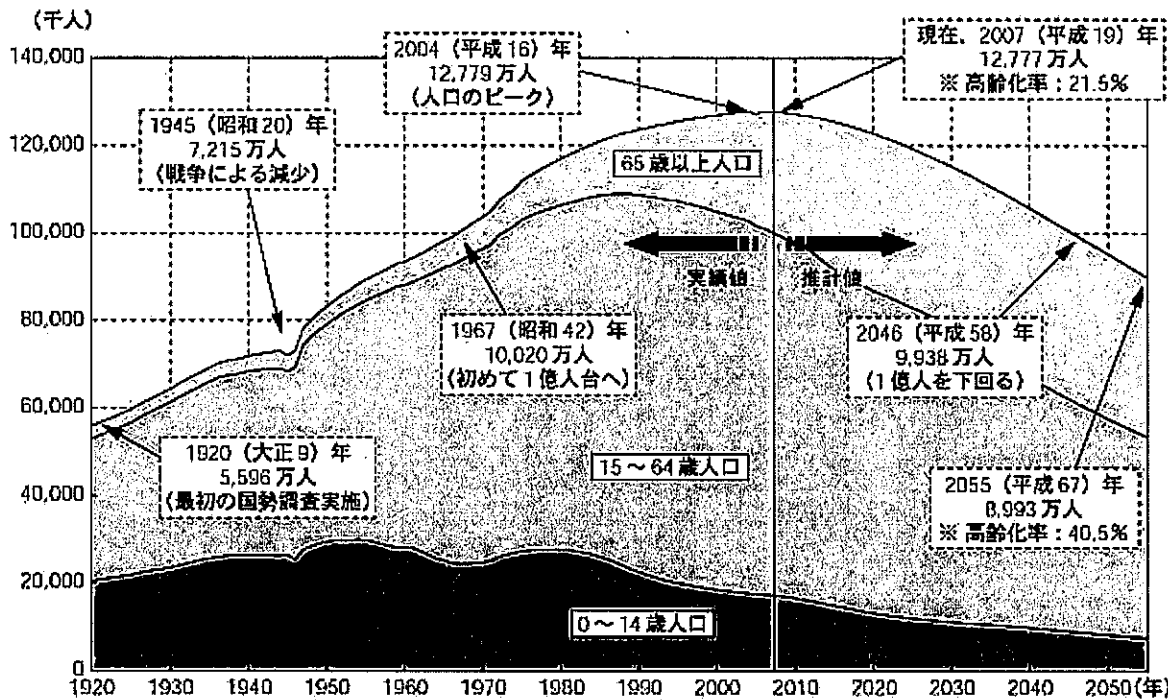
(12:30~14:00)

注意事項 Attention

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子は開かないこと。
Do not open this booklet without the examiner's permission.
2. 問題用紙、解答用紙に乱丁等がないか確認すること。
Please check to ensure all pages are present in the correct order.
3. 試験問題は2題あります。1題選択し解答すること。
Select any two questions to be answered among the questions 1, and 2.
4. 解答用紙をとじているホッチキスは、はずさないこと。
Do not remove the staple from the answer sheets.

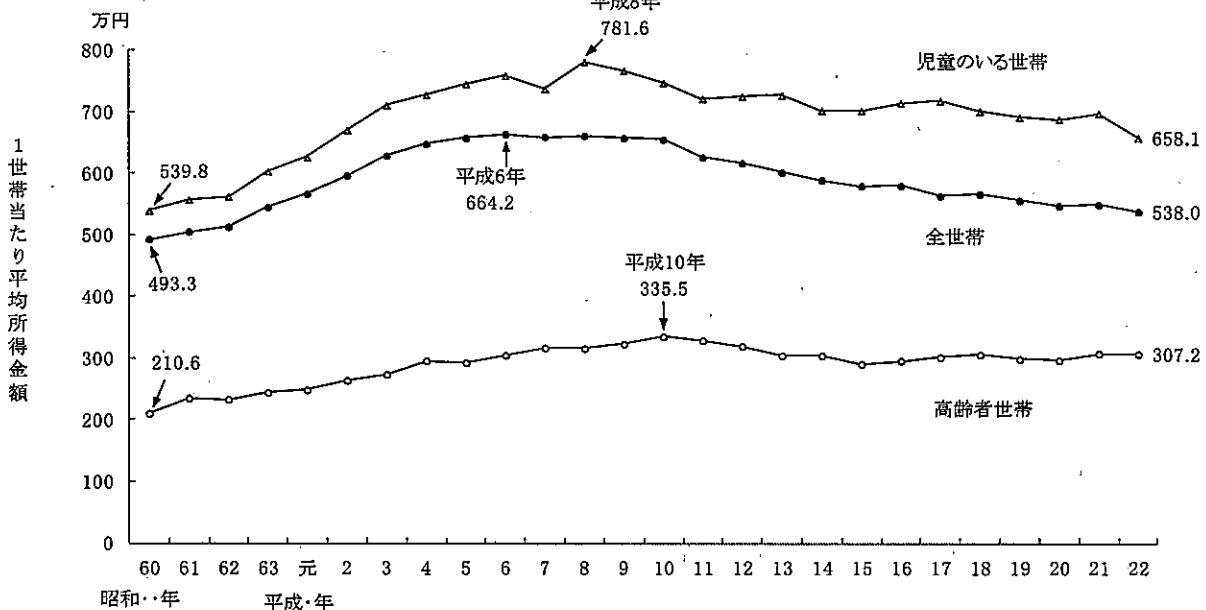
以下の図表を見て、あとの質問に答えなさい。

人口構造の変化



資料：実績値（1920～2006年）は総務省「国勢調査」、「人口推計（各年10月1日現在推計人口）」、推計値（2007～2055年）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の中位推計による。
 注：1941～1943年は、1940年と1944年の年齢3区分別人口を中間補間した。1946～1971年は沖縄県を含まない。

1世帯当たり所得構造の変化



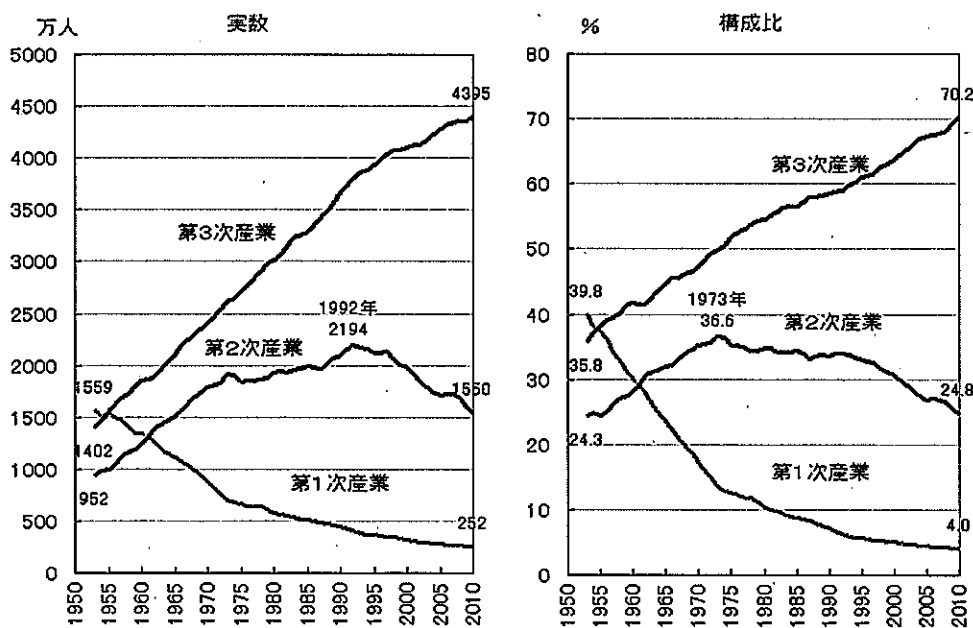
注：1)平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2)平成22年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。なお、平成21年のこれら3県分を除いた44都道府県の数値は、22頁の参考表8に掲載している。

1人当たり国民所得国際比較(US \$ 換算)

	1995	2005	2006	2007	2008	2009
日本	31249	26231	25010	25258	27799	28263
アメリカ	22166	34368	36296	37009	37109	35787
カナダ	14215	25967	29460	32413	33974	29272
英国	14818	29771	31252	35900	34956	28308
ドイツ	23185	25565	27089	30513	33276	30307
フランス	19860	25446	26820	30683	33355	30512
イタリア	14446	21530	22226	24982	26752	24305
スウェーデン	21352	30061	32443	37884	39266	31080
中国	569	1728	2066	2648	3259	3628
韓国	9188	13418	15037	16499	14661	13108
シンガポール	20061	21220	25210	30346	33560	30068
マレーシア	4112	5135	5820	6858	7921	6732
タイ	2102	1905	2243	2701	2979	-
インドネシア	1024	1150	1442	1694	2022	2080
インド	305	615	684	853	918	-
オーストラリア	15226	26218	27805	33177	35216	-
ニュージーランド	11249	18411	17476	21144	20359	-
ブラジル	4687	4604	5646	7041	8332	7949

内閣府『平成21年度国民経済計算』他による

産業別就業者数の推移



(注)1953年以降の各年データ。産業不詳の就業者があるため構成比の合計は必ずしも100となっていない。
(資料)労働力調査

質問

前の4つの図表から予想される、日本の社会経済構造の現在および将来の状況が、日本のこれからの医療制度設計にどのような影響を及ぼすか、あるいはどのような医療制度をもたらすことになるか、あなた自身の見解を述べさない。(2000字以内)

ブータン王国の「グロス・ナショナル・ハピネス(GNH)」や、菅直人前首相の「最小不幸社会」、蒲島郁夫熊本県知事の「県民幸福量の最大化」などのように、公共政策のアイデアとして「幸福」を目的としているものがある。次の論文を読んで、公共政策の目的を幸福とすることについて論じなさい。

人はいくら稼げば「幸せ」を実感できるのか？

稼ぎが多ければ多いほど幸せなのか？ じつはそうではなさそうなのに、なぜ人はエネルギーを費やしてより多くの金を稼ごうとするのだろうか？

最初に、少し注意しておこう。稼ぎが少ない人の場合、収入が増えると幸福感は確かに高まる。だが米国で実施された大規模調査によると、収入の伸びが幸福感に与える影響は年収7万5000ドル（約600万円）あたりで次第に小さくなるという。

スーパーリッチな人々が際限なく富を増やそうと努める理由のいくつかは驚くほどにシンプルだ。ジャーナリストのH・L・メンケンがこう述べている。「金持ちとは、妻の姉の夫よりも年間100ドル多く稼ぐ人のことだ」と。

われわれが収入によって感じる幸福は、どれだけ高い収入を手に入れているかだけではなく、仲間よりもどれだけ多く得ているかによって異なる。そして、他の誰かの収入が自分よりも多いことを知って傷つくことは、富の蓄積においては大きな動機づけになる。さらに、最近の調査で、人は周りの人と競うだけではなく、できるだけ大きな差をつけたいと思っていることが判明している。

興味深いことに、これは逆に年収がひどく少ない人たちについても当てはまる。筆者が協力したある最近の研究の結果、最低賃金の引き上げに最も強く反対している人々の集団は、最低賃金をわずかに上回る程度の人たちであることがわかった。なぜか？ それは、もし最低賃金が引き上げられれば、彼らはこれまで優越感を持って見ていた人たちと「最下位」で並ぶことになるからだ。

もっと明らかなことに、お金には特別な性質がある。今年の方が昨年よりも暮らし向きがよくなったかどうかを考えると、「私の人生の意味が高まったか」といった基準は曖昧で、数値で表すことができない。一方、給料なら物差しになる。「今年の年収が去年よりも多ければ、暮らし向きはよくなったことになる」といった具合だ。

私がカナダのブリティッシュ・コロンビア大学で行った共同研究がある。私たちは被験者に対して、年収が5000ドルから10万ドルの範囲で、それぞれどのぐらい幸せに感じるかを予想してもらった。また、実際の年収といまの暮らしにどれほど満足しているかも尋ねた。その結果、被験者は一般的に収入が幸せに与える影響を過大評価していることがわかった。

たとえば、年収を2万5000ドルと申告した人は、年収が5万5000ドルに増えれば、いまの2倍は幸せに感じるだろうと答えた。ところが、この2つの収入レベルの人たちに、暮らしに対する満足度を評価してもらったところ、高収入のグループの満足度のほうがわずかに9%高いだけだったのだ。

とはいえ、やはり裕福な人のほうが、金の力で“幸せを買う”余裕はあるようだ。ただし、人が想像するのはたぶん違う形で、になるだろう。

私たちの研究は、少しばかり普通とは異なることをした場合に、人は幸せに感じられることを示している。お金を人のために使うのだ。慈善事業へ寄付をしたり友人にコーヒーをおごったりするなど、人のために使うことは、お金を幸せに変えるための効果的な方法なのである。

"COURRIER JAPON", VOL. 097, 2012.

(*Michael I. Norton* , excerpt from issue 2875 of New Scientist magazine)